

保育論上に於ける 根本的二思想

和田 實

遊戯を利用して教育す可しと云ふことは幼稚園教育上に於ける従来の思想なり、現在も斯る見解を以て我幼児教育を律して行かうと云ふ考を以て居る人は決して尠くない様であるが、是が果して正當な考であらうか吾人は之を疑ふものである、否吾人は是が従来の幼稚園教育に種々な弊害を醸した原因であると思ふのである、一体利用など、云ふ言葉はともすると廢物利用などの利用と云ふ言葉と同様に考へられるものであるから遊戯を利用して教育すと云へば遊戯と教育とは本來全く異つて居るもの無關係のものではあるが併し之を甘く用ゆれば教育的効力があるものであるからそこで教育に利用す可しであるといふ様に聞える、イヤ實際斯様に考へて居る人が尠くない様である、是は全く間違つた考と云はねばならぬ、此論録で行くと遊戯は本來教育的のものではないが之を利

用し遊戯の假面を被つて幼児を瞞着することに因つて教育することが出来るといふ様な議論になるから従つて此主義を奉ずる人から見ると遊戯的に教授することは幼稚園本来の仕事であるかの様に考へられ、従つてまた次の様な話は幼稚園に於て當然なざる可きもの、様に思つて居る人がある。

或處に早起のよい坊ちやんがありました、此やうにはやく起きましたらきつとよい事がありましたやうと下婢も下男もほめて居ました、其御褒美に坊ちやんの體は肥えて元氣よいつやうしたもものなり他の小供が寒いといふ時でも「何にこれ位で日本の男子が」と風を切つて御遊びをしてすこしも寒い苦しいのつかれるなどいふ事がありません、それもその筈五ツの時から毎朝冷水に摩擦をしてもう日本帝國の御爲になり得らるる男子となりたといふ心が浸み込んで居りますから少しも苦情を云つて家の人を困らせる事なく何處までも快活な坊ちやん、今朝は何か竹刀のかはりになる棒をさがしに物置へゆきました處が石炭と石炭と話をして居ました一方は黒いので一方は黒さも黒しヒカ／＼光る眞黒いので今丁度話がはじまりました處らしく、黒いのがあゝ君はなか／＼我々のなかまではえらひいくらたかれても苦情らしく煙なんが出さないからそれで水雷艇や何んか大事なもの、御用に立つのだなあ無煙炭君！
いやそんなに云ひ給ふるな黒炭君、君ほど世の中に向つて役に立つて居るものはないではないか近頃のやうに寒くなればスト

トブにつかはれて人間が大喜び、汽車や汽船を動かす原動力になり、君のために國の文明を開かれ地球の上も雑作なくあるく事が出来、人間は伶俐になりとかくわれ／＼よりは君達の多い方がよいやうだが奇妙だね各國の文明の程度はわれ／＼の出したの多い少ないの關係するといふ事だ。

それそうかも知れんよ君のやうに燃力の強いものは強ひもので是非國防をやつてもらふし僕なんかは僕でまたこの家でストーブにつかはれるやうになつてまあ人を温かにして人に仕事をさせるよいやうにするのも一つのわれ／＼の務が君まあこれでもよいが僕はもつと活こよ。

そうだらふともうしてまだはたらいて文明に貢献するか國家に身を全く盡くすのかはなしたまへ。

今僕がストーブではたらいたのでは煙が煙突から出てゆくし灰と石炭屑になつて棄てられた、熱だけが役に立つばかりだが僕を空気のはいらない鐵でこしらへた乾溜器の中へ入れると蒸し焼きにされるとストーブの煙の分もつと丁寧にされてるので石炭瓦斯になつて瓦斯溜にあつまるそれまでに冷されたりきれいにされて溜つたものは瓦斯管を通つて往來の安全燈や店前の明りになり、勉強家のランプに代りいろ／＼勉強が出来台所へゆくとお三がまあ瓦斯になつたらはやく煮えて樂だ今かけた御湯がこんなに沸いたと大喜びをさせるし、方々を喜ばせて仕事をさせる事が出来る。

それはそうだな人が喜んで仕事をするそでないのとは倍も三倍も結果がちがふからな實に君はかくれた大きき仕事をやつて

居るよ、まあそんなにいひ給ふなも一つあるそれは石炭瓦斯が出るときに一しよに出る物の中で直ちに冷えてまた瓦斯溜に行かないさきに液體になつてしまふものでコールドールといふ物がある、これはつい近來までは電信柱や木の塀や何か腐れないために黒く塗るときにつかはれた位のものであつたが、此頃はこれを分折して中にまた／＼人間の役に立つものがあるよ大まはぎ／＼して居たがそれはアニリン色素があるといふ事でその赤色は植物からとる茜色よりもよい奇麗だと染料につかひ青も藍よりも奇麗な色だともてはやされるやうになつて今までたゞ防腐につかはれて居たものがな／＼價が上つたといふ事、そして此等の色を取つたあと「ピッチ」といふ黒いものが残り之が木に塗るのによろしいやうでも棄てる處はない。

そうか

それから乾溜器の中に残つたものがあるこれはコークスといつて純粹の炭素斗りだ、そして熱が強いから冶金術などの時には必要のもので、ストーブなどへも入れると火の經濟になる物を煮たり焼いたりする炭の中へも交せておくと餘程ちがひ徳用だ。

まあどうも棄てる處なし的人間の役に立つから文明の爲めに盡したといふ事が出来るかと思はれるのだ。

全くだわ。が、君御互に人間がいろ／＼つかひ方を考へてくれるからよいの昔第三紀の頃は御互太陽の光をかけて温かに緑色よく幹も太く丈も高く、立派に生ひ茂つて居つた植物だつたがその後久しく地の中にはいつて居た間に變つたがね、太陽は相

變らずだれ、まあ御互に人間にいろ／＼役に立つ事が出来るのもとは太陽があんなに可愛がつて大きくしてくれた御隆だねとしきりに二つの石炭が話して居たのを聞き坊ちやん竹刀もわすれて面白ひと思ひ靜かにして居ましたら母さんかもう御飯ですよ坊ちは何處へ行つたかしらんと御さがしになつて居ました御聲がきこえましたので「ハイ」とよく御返辭をしてすぐ御家の内へまゐりました、そして今朝もよい事を聞いたと御話を致しました。

此話は徹頭徹尾教授することが目的であることは云ふ迄もないが之を幼稚園教育に施さんとする人は明かに遊嬉を利用して教育しやうと考へたに違ひない。是果して正當なものであらうか、勿論右の様なのは極端な例ではあるが議論の筋から見れば斯る話をして材料がむづかしいと評する外に誤りであると言ふことは云へぬ譯である。併し幼稚園は決して遊嬉の假面を被つて教授する處ではない、勿論吾人として遊嬉的教授法なるものが實地教育事業の中に或位置を有することを知つて居併し夫れは必ず小學校の最初の部分を占む可きもので決して幼稚園の範圍に來る可きものではない幼稚園は單に幼兒の遊嬉場である、消極的に云へ

ば害なく危険なく幼兒の遊ぶ所である、積極的に云へば理想的に完全に幼兒をして遊ばしむる所である、舊來の思想に従へば遊嬉と教育とは元來一致す可きものでないと言ふのであるが新思想は全然此見解に從はぬ、從はぬのみならず遊嬉を以て全然教育事項中の一事項とするのである、換言すれば幼兒をして遊戯せしむることは取りも直さず一つの教育を行つて居るのであると云ふのが保育上の新思想である、従つて最も能く遊びたる子供は最もよく教育せられた子供であると云ふのが新派の理想である。但し此思想の根本には遊嬉は幼兒の時期に於て必然に自發す可き活動の主たるもので、幼兒は之に因つて後來の活動と發達とを得るものであるから是以外何者をも添加する必要がないと云ふ預定が横はつて居ることは勿論であるが、舊思想に於ては之を許さぬのである、遊嬉は幼兒の自發活動には違ひない、そして夫れが幼兒の天性には違ひない、併し教育は全然此天性に從屬し此自發活動を満足せしむることだけで達す可きでない、教育は多少壓迫を意味して居る幾分か

無理押しすることは止むを得ないことである。舊派は辨護する、併し是が抑も幼稚園を毒した意思で吾人の極力排斥せんと欲する處のものである。苟もルーソーが教育史上に名を輝しつゝある間は斯る思想は行はる可くも思へない、自然の發達に副ふとか自然の發達を擁護するとか云ふことが現今教育上の根本主義である以上は壓迫して教育し無理押しして發達せしむと云ふことは決して理想の中に来る可き筋のものではないのである。勿論幼兒の遊嬉が有害に傾き危険に瀕して居ると云ふ様な時には敢然其遊嬉を禁止し其活動を他方に向かしむることはある、そして其手段として時に強行的態度に出づることなしとは云はぬ、併しなから是に飽ちも教育上最後の下段である。正常的感化誘導の方便に窮した時の權道で決して理想の方法ではない、是を以て教育は根本に於て壓迫を意味すとは如何にも受け取れぬことである、難者は又云ふ、行儀作法の如き良習慣は強迫しても之を躰くるの必要があるではないかと、併し是も又誤りである、幼兒の良習慣は其境遇次第で不知不識

十
 の間に自由で寝られる可きもので又是が正當な順路で決して強迫し壓制して押し付く可き筈のもではない、少くも感化誘導を主とする幼兒教育に於て採る可き方針ではない、最も實地に於ては時に壓迫し強制的な必要がないとは云はぬ、併し其は必ず從來の方針が誤つて居つた時で即ち變則的權道と必要とする時で決して正常的なものではない、此例外なる權道を主眼としてかかるが故に教育は壓迫を意味し強制的意味すとは云ひがたからうと思ふ要するに睡眠と飲食とを除けば幼兒の自發活動は遊戯の外に一物もあるものではなく、幼兒は遊ぶことに因る外發達の徑路なきものである、故に之をして遊ばしむることは幼稚園教育の本領であるとするのが保育上に於ける新思想の根本原則で吾人が極力主張しやうとする所のものである、作し此主義の及ぶ所は其範圍が中々廣くても在る、保育界をして殆んど一變せしむる程に大變事を要するものである、吾人は折を得て時々本誌上に之を開陳し會員諸君の高評を得んとするものである。